

## 大学を中退しひきこもり、短期大学校で立て直す

他県在住の青年の話である。面談やカウンセリングは、すべてオンライン（skype）で行った。

相談は9月7日に入った。公的機関に紹介され、母親がオンラインで来た。彼は当時20歳で、工業大学を半年(手続き上1年)で中退してひきこもり、1年半が経つと言う。

聴くに、48歳の父親に49歳の母親と、一人っ子の彼の3人家族。年少からJリーグの下部組織に入り、サッカーを始めた。父親譲りで運動神経は良く、年長の時にはFWで得点を取りまくり、ちょっとしたヒーローになった。小学2年生の時に、地元のサッカースポーツ少年団に移籍、そこでもFWとして結構活躍したと言う。

中学校に上がると、全国高校サッカー選手権当該県代表としても出場した実績のある、サッカーの名門私立高校のサッカークラブに入った。しかし名門クラブ故に、周りには彼以上に上手な選手は大勢おり、彼の活躍は目立たなくなってしまった。

幸い、彼曰く「短期的暗記力」があるため、勉強しなくても成績は取れ、内申は45点中43だった。地元の公立高校英数科に進学した。そして前述のサッカークラブは退団し、その高校のサッカー部に入った。最初の頃は1年生ながら先発メンバーに名を連ね活躍したが、監督の指導方針と、彼自身が当時持っていたポリシーが合わず、また練習不足による体力不足も加わって、サッカーを続ける気力も失せてしまった。遂に1年生の終わりに、同高校サッカー部を退部した。

一方で彼は、中学校3年生の頃から心理学に興味を持ち始めた。特に色彩心理学に、興味を持ったと言う。それが高校2年生の頃、当時ブームにもなったロボコンにも興味を持ち始め、工業大学進学を夢見た。そして学校の推薦を経て、工業大学工学部機械工学科に合格した。

ところが入学して約6カ月後、友達とのトラブルを機に、大学の授業に出れなくなり、アパートに引き籠もるようになってしまったと言う。

家族の心理テストを採り、ファックスで送ってもらった。その分析は以下の通りである。

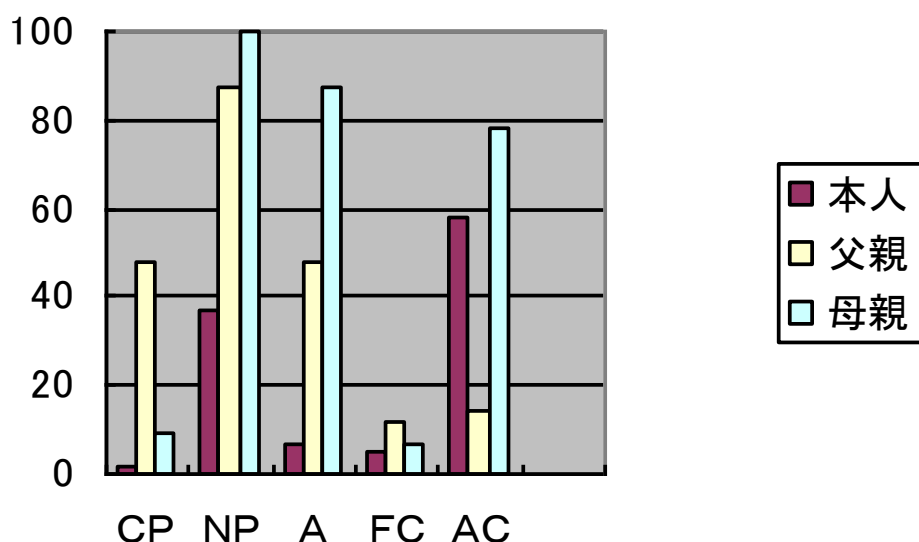
彼は生活のエネルギーが低くなっていて、物事に執着せず、あっけらかんとした人とも言える。しかし、それでも優しい気持ちは持ち合わせており、困った人を見ると放っておけないところもある。そんな彼が求めるのは平凡で楽しい生活ではないか。

現在の状態の心理的素因は、C P（父性）とA（知性）、F C（感性）の自我状態の低さ、A C（順応性、周りの目が気になる）の自我状態の高さにある。即ち、友達から何か嫌なことを言われたりされたりしても、優しい気持ちも相まって言い返すこともできずにきたストレスからか、且つ、周りの目が気になることも加わって、また、そうした自分を客観視できず、自ら表に出て様々な体験や出会いに参加する行動が取れずにいる。結果、生活のエネルギーが低くなっており、自分の将来を描くことができていない。

父親と母親の心理分析は、本話の趣旨から割愛する。実際は、両親共々これからの生活に必

要なアドバイスも加えたが、それも割愛する。

両親にこの分析を伝えた翌日、母親同席の元彼と会った。1 時間ほど、彼の話聴いた。冒頭の彼の話には、この時の彼の話が大分入っている。これからことを聞くと、まだロボ



コンへの興味失せていないが、もう一度大学に入る気持ちはない。ただ今の興味はと聞かれれば、プログラミングかなと思う、と言う。6 日ほど時間を頂き、彼の対応を立案した。

1 週間後、再び彼と母親と会った。まずは彼に対して、CP（父性）とA（知性）、FC（感性）を成長させ、年齢に応じた行動が取れ、自分を俯瞰できる能力と、同世代の仲間たちと群れ集える能力を身に付ける訓練（カウンセリング）を、週2回行うことを提案した。そして、コンピュータのハード（電子回路）とソフト（プログラミング）を学ぶ当該県内の2年間の職業能力開発短期大学校を紹介し、学校説明会に行くことを勧めた。

結果、カウンセリングを3日後から始めることに同意し、開始した。両親とも2週間ごとに、彼の状態の報告を兼ね面談していった。

2週間ほど経って、両親と一緒に彼が当フォーラムの事務所に来た。紹介した職業能力開発短期大学校の説明会に行き、その後両親とも話し合ってきたところだと言う。両親共々その大学校が気に入り、その大学校の入試を受けたい、と申し出てきた。書類審査と小テスト（数Ⅰ）の推薦入試と、数Ⅰと英語コミュニケーションⅠの一般入試の両方、挑戦したいとのことだった。

そこで、1年半以上勉強から遠ざかっているため、カウンセリングと並行して、当グループの予備校（自宅受講コース）に入り、自己推薦書・志望理由書対策講座と、数Ⅰと英語コミュニケーションⅠを受講することになった。受講は1カ月ほどで修了し、12月の推薦入試まで、ファックスを活用し私が自己推薦書と志望理由書を添削し、彼は数Ⅰと英語コミュ

ニケーションⅠの過去問を解きながら、入試に備えた。後に聞くに、カウンセリングとの並行作業で、1年半ひきこもっていた彼には少しハードだったようだ。でも希望が見え、頑張った、と彼は言った。

勿論、推薦入試に合格し、一般入試は受けることはなかった。3か月のカウンセリングも修了し、目論んだ通りCP（父性）とA（知性）、FC（感性）が成長し、自立を果たした。